

どのむかし話かな？①

名前

むかし話のあらすじと、正しい「だい名」をせんでむすびましょう

1

あるどうぶつが、たすけてくれたおじいさんとおばあさんにおんがえしをする話です。おんがえしのしかたは、自分の「はね」と、おじいさんに買ってきてもらった「糸」をおってし上げた「きれいなぬの」を売ってお金をかせぐことでした。

2

お正月が近づいているのに、もちも買えないおじいさんとおばあさんがいました。作っていた「かさ」を売り、もうけたお金でお正月のたべものをかうつもりが、まったく売れませんでした。

3

おじいさんが山でいつものように木を切っていると、おひるの時間になりました。おばあさんがにぎってくれたおむすびを食べようとすると、コロコロころがりあなへ入ってしまいました。

4

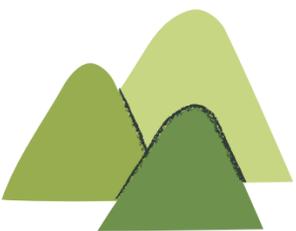
おじいさんが山へしばかりをしているあいだ、おばあさんは川でせんたくをしていると、大きなくだものがながれてきました。家にもち帰り、たべるために切ろうとしたら元気な男の子がとびだしてきました。

おむすびころりん

ももたろう

つるのおんがえし

かさじぞう



どのむかし話かな？②

名前

むかし話のあらすじと、正しい「だい名」をせんでむすびましょう

1

おにたちのえ会にぐうぜんいあ
わせたおじいさんが、おどりをひ
ろうするはめになりました。する
と、おにたちにおどりをほめられ
ました。ひよんなことからずっと
気にしていたあるものを、とられ
てしまいます。

こぶとりじいさん

2

おじいさんがきつねの子どもに
木のみをとってあげました。ある
日、子ぎつねと母さんぎつねから
おれいにと「頭きん」をもらいま
した。頭きんのおかげで、長じゃ
さまのむすめがやまいにふせつて
いるりゆうが分かりました。

かちかち山

3

元気な男の子は、山のくまとす
もうをとってかつほどの力もち。
なかまのどうぶつたちと出かけて
いるとき、はしがなくなっている
ことに気がついた男の子は、木を
たをしてはしのかわりにしまし
た。

聞き耳ずきん

4

うさぎとたぬきが出てくるおは
なしです。わるいたぬきのせいで
おばあさんがなくなり、なげきか
なしんでいるおじいさんを見たう
さぎが、おばあさんのあだうち
のためにたぬきたいじをします。

金たろう



どのむかし話かな？③

名前

むかし話のあらすじと、正しい「だい名」をせんでむすびましょう

1 一つ目の大男に、たべものなどをとられてこまっていたむらの人たちは、大男をこらしめようとさくせんを考えました

2 おやゆびほどの大きさの男の子が「さむらいになる」といって、京のみやこに出ていきました。つかえてある家のおひめさまがおににさらわれましたが、おにたいじをしておひめさまをたすけます。

3 まずしいけれどまじめなわかものが「かんのんさま」にびんぼう生活からぬけだしたいとねがいしました。かんのんさまからおつげをもらい、おつげどおりに行動すると、色々なことがおきました。

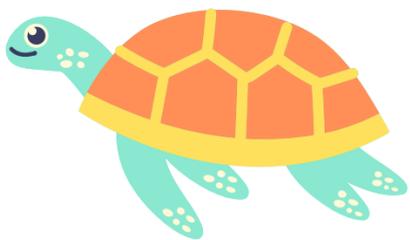
4 りょうしのわかものが、はまべで子どもたちにいじめられているかめをたすけてあげました。かめはおれいにと、わかものを海の中よりゆうぐうじょうにつれていきました。

うらしまたろう

わらしべちょうじや

だんだらぼっち

いっすんぼうし



むかし話のあらすじと、正しい「だい名」を線でむすびましょう

1

1 年よりの木こりとわかい木こりが山で木を切っていました。その山は「まもの」がでるといいうわさがあり、年よりの木こりは「まもの」が出ないかとけいかいしていました。

ぶんぶくちやがま

2

2 雨がふるたびにながれてしまうはしがありました。村人たちからはしを作るようにたのまれた男がなやんでいると、おにが「おまえの目玉とひきかえにはしを作つてやる」と言い、はしを作つてしまいました。

うしおにぶち

3

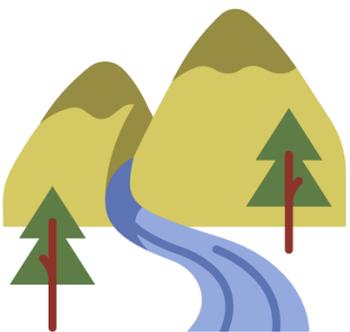
3 おちやのかまにへんしんしていた「たぬき」がひよんなことから、まずしい男にひきとつてもらい、つなわたりなどのげいを見せてお金をかせぎ、男はお金もちになりました。

だいくとおにろく

4

4 心やさしいおじいさんといじわるなおばあさんがくらしていました。ある日、おじいさんがはたけからいえへもどるとちゅう、けがをしているどうぶつを見つけました。かわいそうに思ったおじいさんは家につれていき、手当てをしてあげました。

したきりすずめ



どの昔話かな？⑤

名前

昔話のあらすじと、正しい「題名」を線で結びましょう

1

心優しいおじいさんとおばあさんと、欲深い意地悪なおじいさんとおばあさんが隣り同士に住んでいました。ある日、優しいおじいさんのところに犬が走ってきました。意地悪じいさんの畑を荒らしているというのです。

2

竹取りのおじいさんが竹を切っているとき、光りかがやく竹を見つけてきました。おじいさんが切つてみると、その中には小さな女の子がいたのです。子どもはいないおじいさんは家に連れて帰り、おばあさんと育てることにしました。

3

昔、神様が動物たちに「今度の元旦に私のところに来なさい。十番目までに着いた者は、これから一年交代で動物の大将とする」とお触れをだしました。

4

病弱なお母さんと男の子が暮らしていました。お母さんに薬を買いたくてもお金が足りず、買えません。裕福なおじいさんにお金を借りて薬を買いました。お金をか返すために、男の子は一生懸命働きました。

かぐやひめ

じゅうにの
はじまり

はなさかじいさん

ごんぞうむし

